

2001年以降の地方エイズ拠点病院 におけるHIV感染症診療の動向 —倉敷市の私立医科大学附属病院の場合—



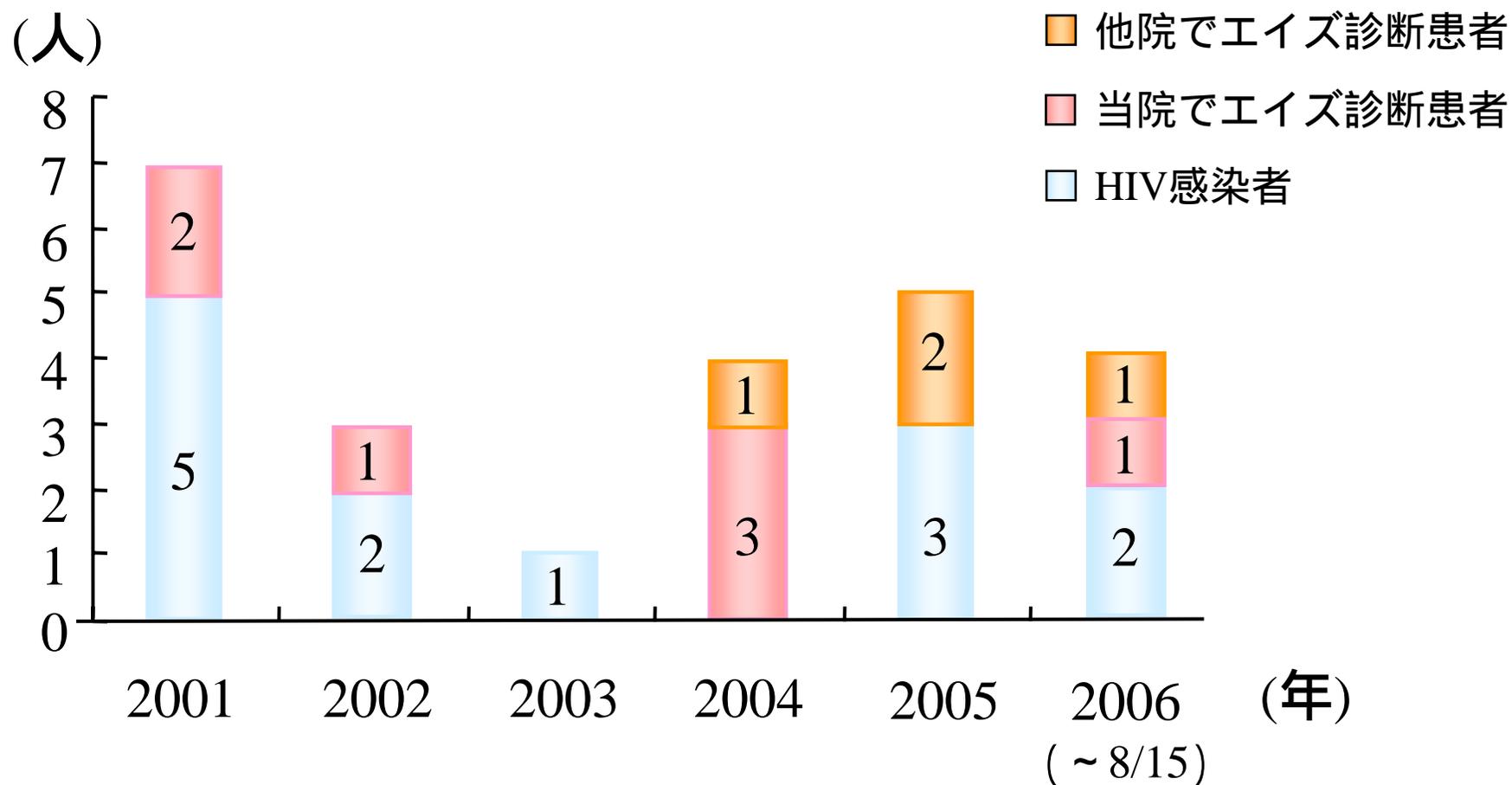
川崎医科大学血液内科
和田秀穂

はじめに

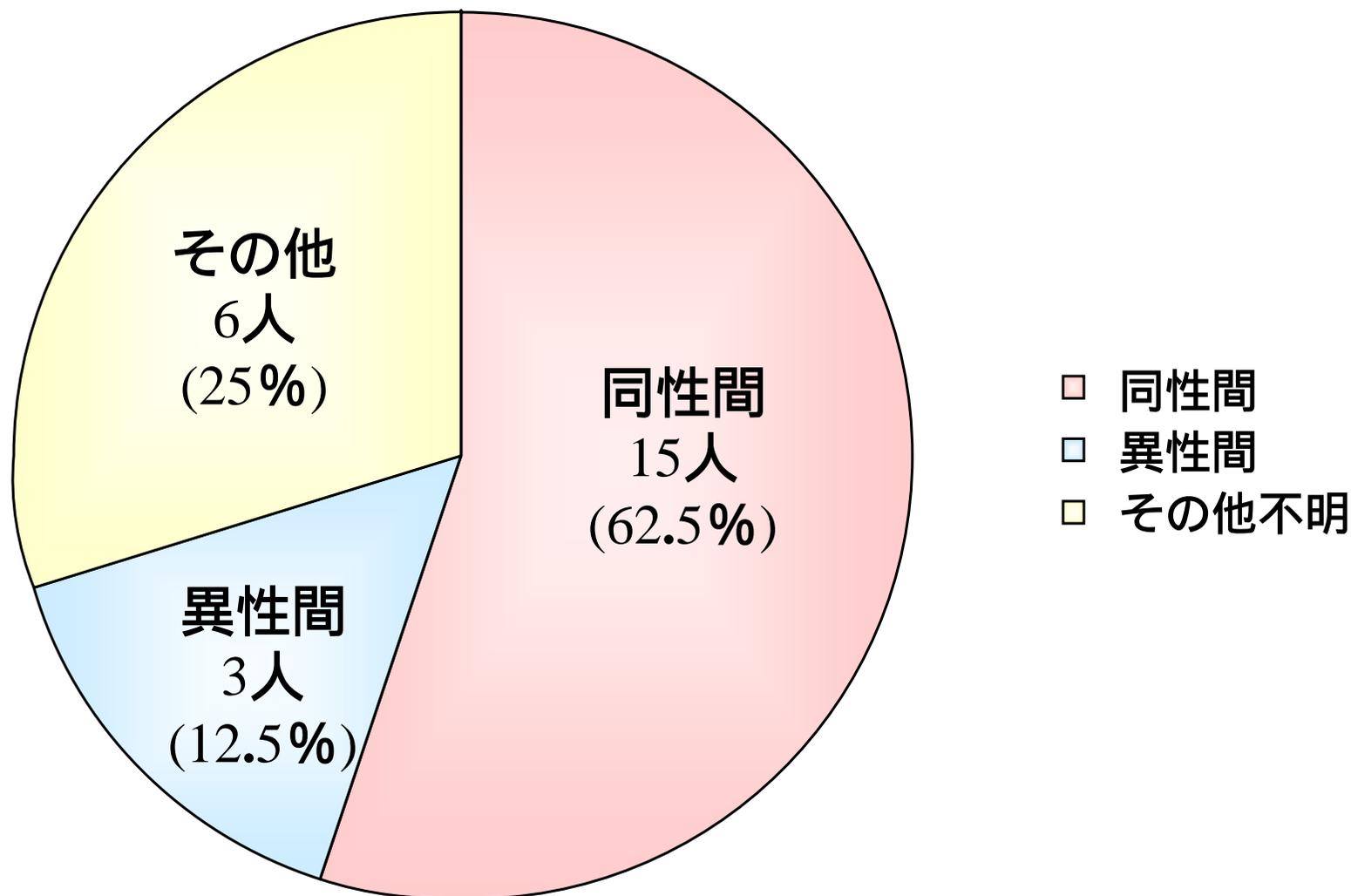
HIV感染症はわが国で依然増加しており、その疫学についても数多く報告されている。しかしその動向は全国調査や、東京、大阪などの大都市における報告であり、地方エイズ拠点病院における実状はかならずしも明らかではない。

今回、倉敷市にある当院において2001年以降に経験したHIV感染症24例を中心に、HIV感染症診療の動向をまとめたので臨床的考察も含めて報告する。

各年におけるHIV感染者と エイズ発病者数



HIV感染者の感染経路



当院を受診後にエイズと診断した患者

	年齢	性別	初発症状	合併症	CD4 (/μl)	HIV量 (×10 ⁴ copy/ml)	感染経路	紹介元
1	20代	女性	意識障害	HIV脳症	11	1.80	異性間	岡山
2	30代	男性	視力障害	CMV網膜炎	11	25.50	同性間	大阪
3	50代	男性	肺炎	ニューモシ スチス肺炎	34	23.00	不明	岡山
4	30代	男性	発熱	CMV網膜炎	43	15.00	同性間	岡山
5	30代	男性	発熱	ニューモシ スチス肺炎	8	75.00	異性間	兵庫
6	40代	男性	発熱	CMV感染症	75	75.00	同性間	岡山
7	30代	男性	発熱	ニューモシ スチス肺炎	26	22.00	不明	岡山

2~7は、初診時エイズ発症例

当院受診時に診断した急性HIV感染症患者

	年齢	性別	初発症状	合併症	CD4 (/μl)	HIV量 (×10 ⁴ copy/ml)	現在 HAART 有無	感染経路	紹介元
8	20代	男性	不明熱	HTLV-1 陽性	464	0.14	無	同性間	岡山
9	20代	男性	不明熱	無	437	2.80	無	同性間	東京

急性感染症とは感染後症状があったり、感染の機会から半年以内のものと定義した。

他病院からの紹介患者 (その1: HIV感染者)

	年齢	性別	初発症状	エイズ 有無	CD4 (/μl)	HIV量 (×10 ⁴ copy/ml)	現在 HAART 有無	感染経路	紹介元
10	20代	男性	帯状疱疹	無	123	0.52	有	同性間	岡山
11	50代	男性	アメー バ肝膿 瘍	無	1,126	0.0180	有	不明	広島
12	20代	男性	無	無	639	0.53	有	不明	東京
13	20代	男性	無	無	400	0.29	無	同性間	大阪
14	30代	男性	無	無	212	0.0540	有	不明	大阪
15	20代	男性	無	無	364	0.87	有	同性間	愛媛

他病院からの紹介患者 (その2:エイズ発病者)

	年齢	性別	初発症状	エイズ有無	CD4 (/ μ l)	HIV量 ($\times 10^4$ copy/ml)	現在HAART有無	感染経路	紹介元
16	30代	男性	クリプトコッカス脳炎	有	2	6.90	有	異性間	大阪
17	30代	男性	発熱	有	82	37.00	有	同性間	東京
18	20代	男性	カポジ肉腫	有	不明	不明	有	不明	東京
19	30代	男性	PML	有	57	10.00	有	同性間	東京

保健所などの検査機関からの紹介患者

	年齢	性別	初発症状	エイズ有無	CD4 (/μl)	HIV量 (×10 ⁴ copy/ml)	現在HAART有無	感染経路	紹介元
20	20代	男性	発熱	無	163	0.47	有	同性間	大阪
21	40代	男性	無	無	333	3.50	有	同性間	大阪
22	20代	男性	感冒症状	無	347	3.20	有	同性間	岡山
23	20代	男性	無	無	118	6.20	有	同性間	岡山
24	30代	男性	無	無	551	0.46	無	同性間	岡山

エイズ発病者（24例中11例）の エイズ発症指標疾患

ニューモシスチス肺炎：	4例
CMV網膜炎：	3例
カポジ肉腫：	3例
CMV感染症(網膜炎以外)：	3例
クリプトコッカス症：	1例
トキソプラズマ脳症：	1例
非結核性抗酸菌症：	1例
PML：	1例

* 重複症例あり

診断時及び経過中に発症した エイズ指標疾患以外の感染症

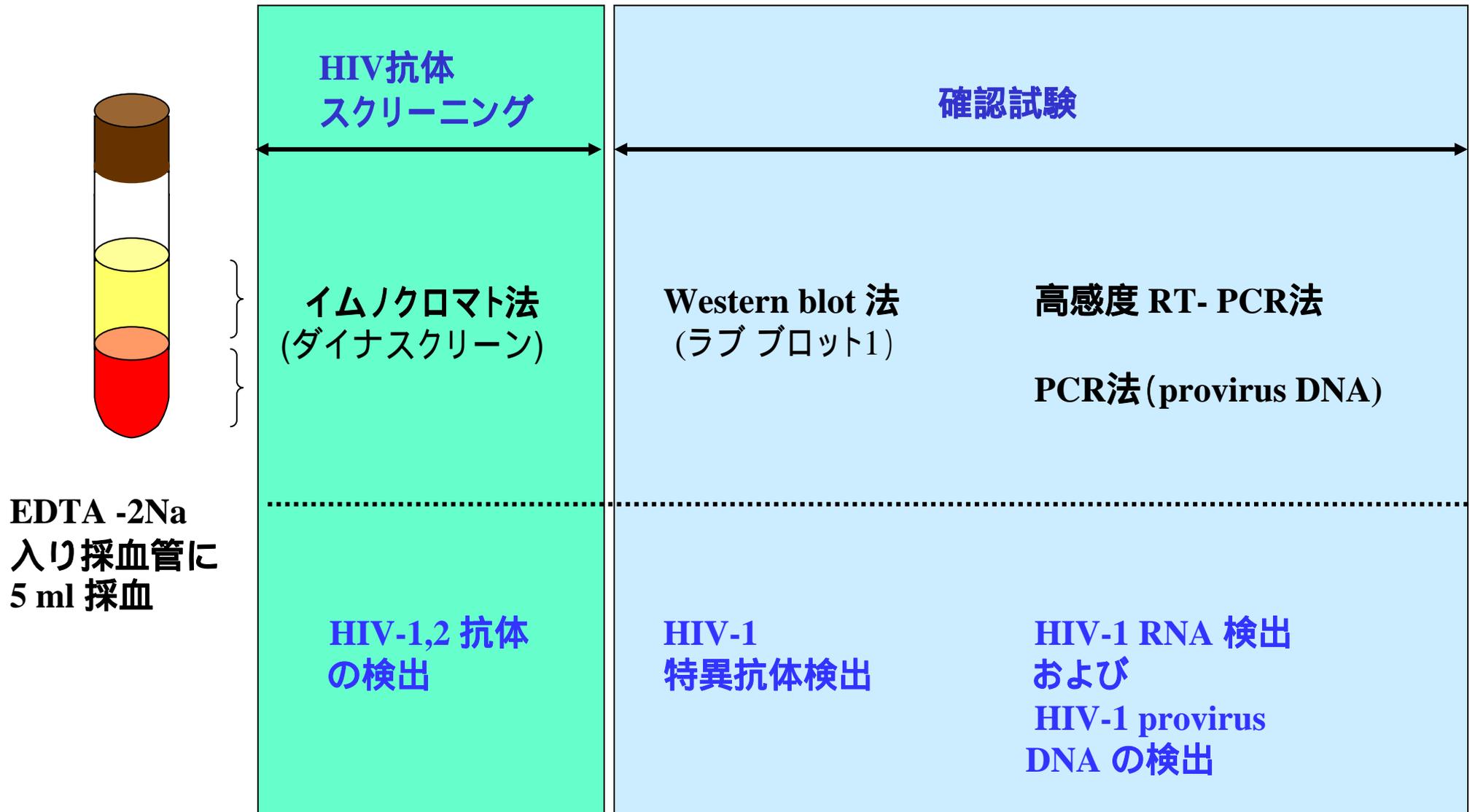
梅毒(非活動性) :	6例
アメーバ赤痢(肝膿瘍) :	2例
口腔内カンジダ症 :	2例
帯状疱疹 :	2例
肛門周囲膿瘍 :	2例
B型肝炎 :	2例

* 重複症例あり

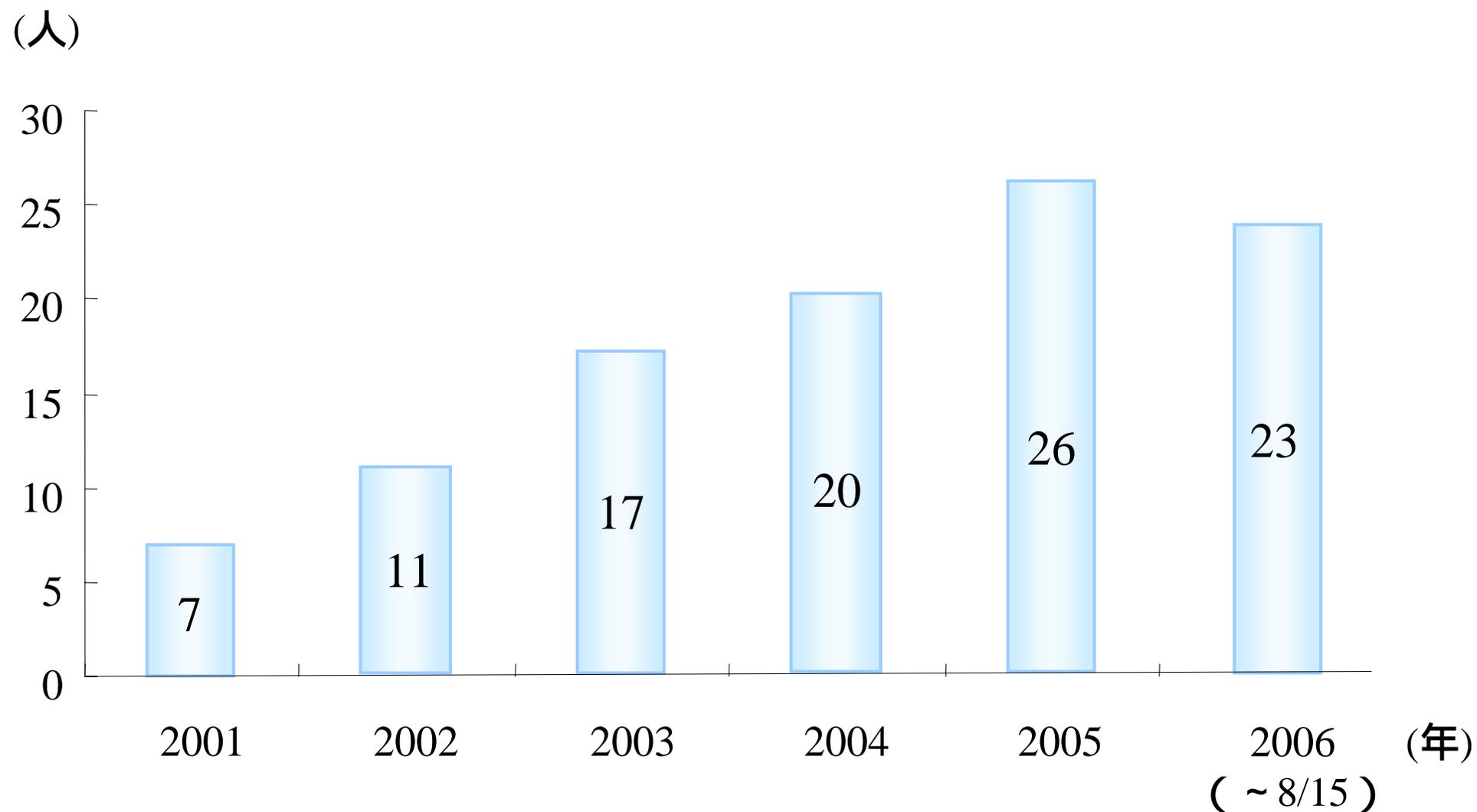
HAART使用頻度の高い組み合わせ

		Backbone						Key drugs				
		逆転写酵素阻害剤						プロテアーゼ阻害剤				
使用順位	症例数	ジドブジン (AZT)	ラミブジン (3TC)	ジドブジン /ラミブジン (AZT/3TC)	アバカビル (ABC)	テノホビル (TDF)	エムトリシ タピン/テ ノホビル (FTC/TDF)	エファビ レンツ (EFV)	アタザナ ビル (ATV)	ネルフィ ナビル (NFV)	ロピナビ ル/リトナ ビル (LPV/RTV)	リトナビ ル (RTV)
			 (150mg)						 (150mg)			
1	4											
2	3											
3	2											
3	2											
5	1											
5	1											
5	1											
5	1											
5	1											
5	1											

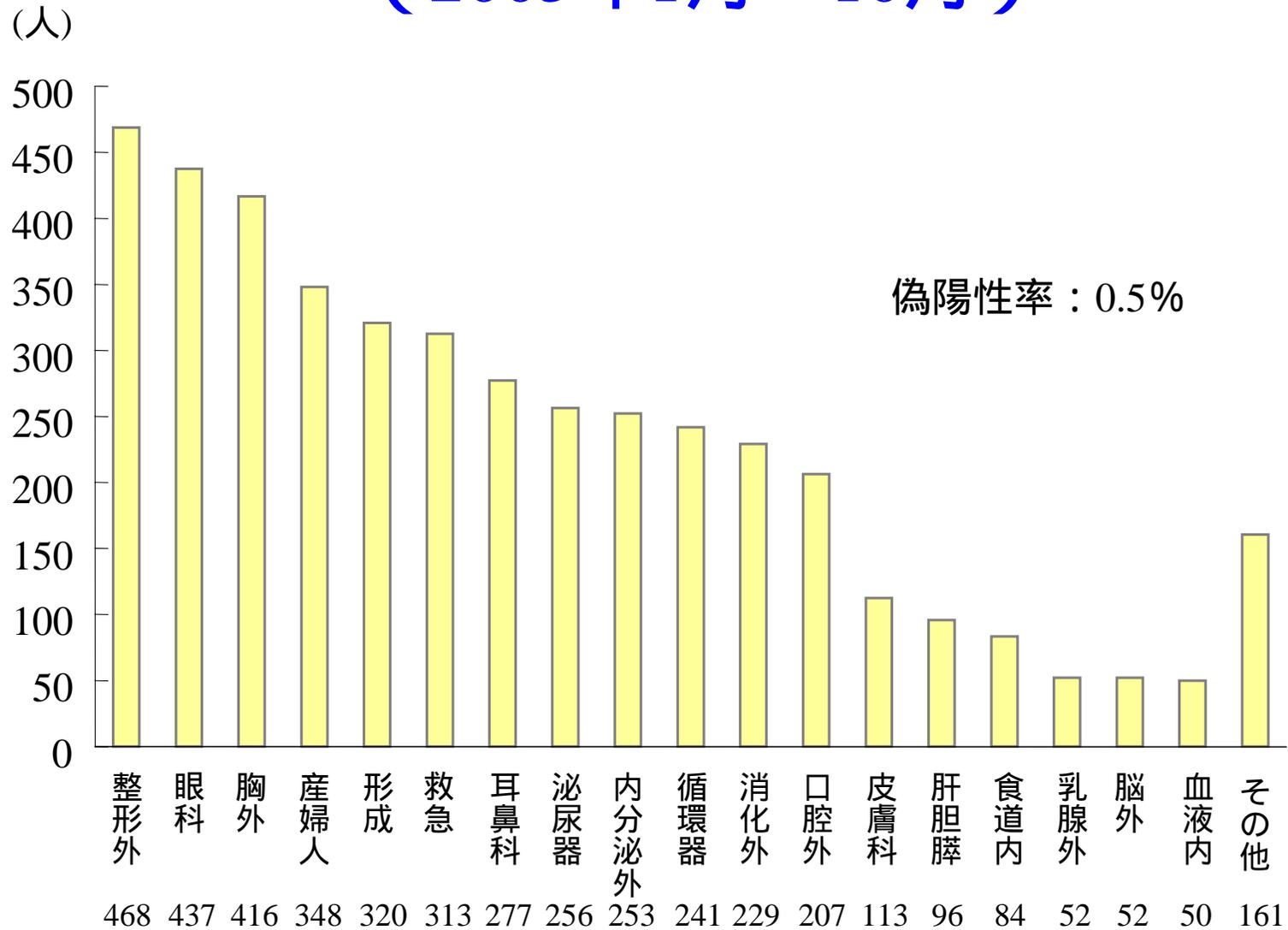
川崎医大におけるHIV抗体検査から確認試験までの流れ



当院外来での自発的HIV抗体検査受検件数



当院での術前HIV抗体検査件数 (2005年1月～10月)



結果 1

- 患者の平均年齢は32.7歳（22～54歳）であり、男性23例、女性1例であった。
- その中でエイズ発病者は11例で、初診時平均年齢は35.2歳（26～51歳）と、やや年齢が高かった。
- 診断時CD4陽性細胞数の平均値は、245/ μ l（2～1,126/ μ l）であった。
- 当院で診断したエイズ発病者（10例）に限ると、平均CD4陽性細胞数は34.9/ μ l（2～75/ μ l）と著明に減少していた。

結果 2

- HIV感染症の感染経路は全員が非血液製剤であり、同性間接触が15例、異性間接触が3例、その他不詳が6例であったが、同性間の感染者はすべてMSM (Men who have Sex with Men)であった。
- 岡山県以外の都道府県からの転入紹介患者は14例 (58%)であり、大阪府が6例 (25%)で最も多く、続いて東京都が5例 (21%)であった。

考察

- 地方エイズ拠点病院である当院のHIV感染症診療の特徴として、岡山県内で感染したと考えられる症例はまだ少なく、大都市での感染者が岡山に転勤あるいは帰郷に伴い紹介受診される症例が多い。
- しかし今後の展望としては、岡山県内での感染者数の増加が予測され、また初診時エイズ発症例も増加の傾向を見せていることから、HIV抗体検査の普及、エイズ発症前にHIV感染症を診断すること（たとえば急性HIV感染症）が重要であると考えられた。